

(調査用)

当施設では下記の調査研究を実施しています

課題名 胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症に関する全国調査と管理指針の作成

調査の目的・意義

胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症は、お腹の中の赤ちゃん（胎児）の甲状腺機能が低下することにより、胎児の甲状腺が大きく腫れてしまう病気です。早産や帝王切開となる頻度が高く、出生後に重症な呼吸の合併症が出ることがあります。頻度の少ない病気であるため、日本における発生頻度や治療法、どのように管理するのが良いのかなどについては良くわかっていません。

原因としてお母さんの甲状腺機能亢進症に対する甲状腺の薬の影響や、不妊治療の際に行われる油性造影剤を使用した子宮卵管造影などが知られていますが、原因の良く分からないこともあります。また、治療法としてお母さんの甲状腺薬の調節や、羊水の中に甲状腺ホルモンの薬を入れて赤ちゃんに飲んでもらう治療法が報告されていますが、どのような胎児にどのような治療法が良いのかはわかっていません。

これまでのところ胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症について日本での調査がなく、病気の頻度や重症度、妊娠中の適切な治療法などについては不明です。そこで、本研究の目的は国内の主要周産期施設で出生前診断された胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症の症例数や重症度、治療法を調査することにより、今後の日本における適切な管理方法を検討することです。

調査の方法

全国の周産期センターにおいて、2019年1月1日～2023年12月31日の5年間に胎児甲状腺腫性甲状腺機能低下症と診断された患者さんを対象とします。

➤ 調査項目

母体・胎児の情報（母体の基礎疾患、内服薬、診断時妊娠週数、胎児の甲状腺の大きさ、羊水量、治療法、治療効果、他の胎児異常など）、新生児の経過（分娩時妊娠週数、分娩様式、出生体重、臍帯血の甲状腺機能、呼吸障害など）

➤ 調査開始時期

2024年11月1日より開始します。

※ 個人情報につきましては管理責任者を定め、紛失や漏洩が発生しないように努めます。

また、研究結果の公開にあたり、個人情報は保守されます。

(調査用)

調査実施機関

国立成育医療研究センター

HPにて概要を掲載していますので、ご覧いただけます。[\(http://www.ncchd.go.jp/\)](http://www.ncchd.go.jp/)

※ 調査への参加を希望しない場合には、お手数ですが、下記の調査責任者までご連絡ください。研究参加の撤回を希望した場合、研究結果公表前であれば、調査票を破棄し集計結果から除外させていただきます。

研究責任者：梅原 永能 TEL: 03-3416-0181